

2020年ヒラメ稚魚分布密度調査結果(太平洋)について

当研究所では太平洋における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を1999年から行っており、2020年は7月31日、8月18日、9月29日に桁網(水工研Ⅱ型)を用いて三沢市沖8点で行いました(図1)。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると0-190尾/1,000m²の範囲にありました(表1)。採集したヒラメの全長組成は、7月31日に水深5m及び7mで30-39mm、8月18日に水深5m及び7mで30-49mmが主体となっており、9月29日に水深5m及び7mで90-129mmの範囲でした(図2)。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、2020年は109(表1)で、1999年以降の平均値49を上回り、過去4番目に高い水準でした(図3)。

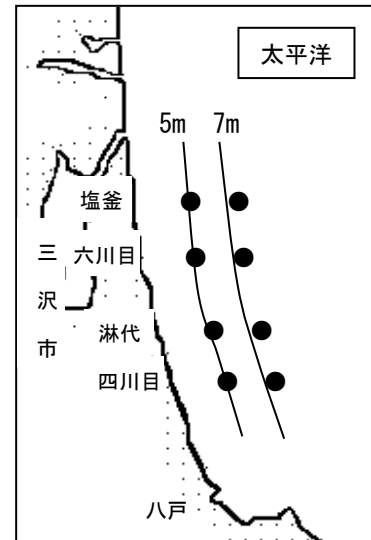


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

調査月日/調査点	水深 5m				水深 7m				(個体/1,000m ²)	
	四川目	淋代	六川目	塩釜	四川目	淋代	六川目	塩釜	5m 平均	7m 平均
2020. 7. 31	32	123	190	113	66	84	57	110	109	85
2020. 8. 18	15	42	40	57	27	55	66	96	39	60
2020. 9. 29	0	0	6	0	0	0	8	4	2	3

* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

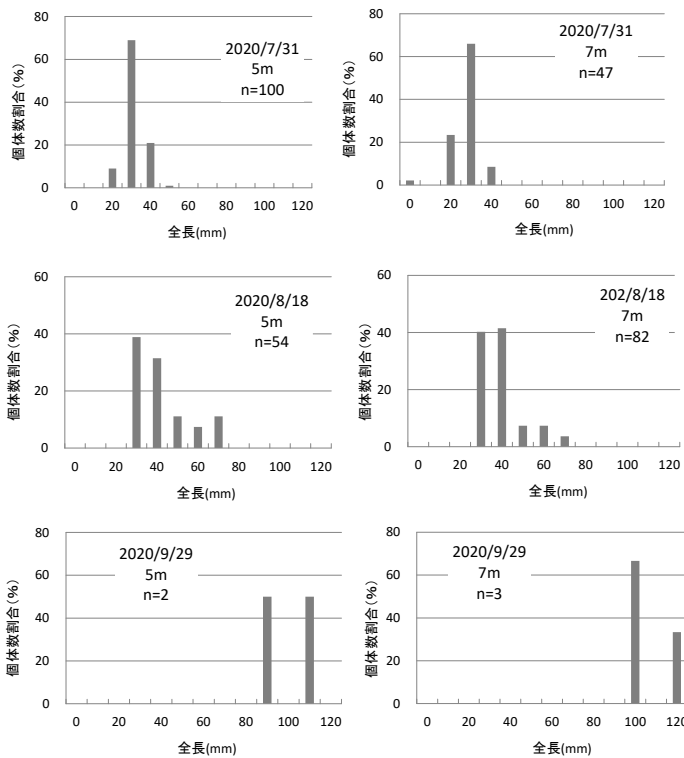


図2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

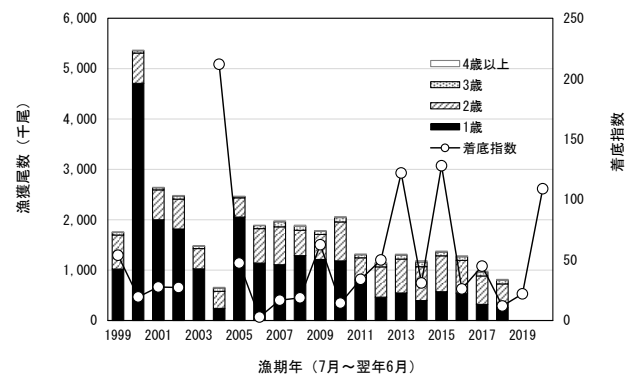


図3 太平洋のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移